

環境学委員会 都市と自然と環境分科会 第24期第2回分科会議事録

日時： 平成30年2月26日（月） 15:00~17:00

会場： 日本学術会議5階 5-A(1)会議室

出席者： 石川幹子委員，池邊このみ委員，平澤毅委員，小森大輔委員（スカイプ），
高橋佳子委員，池田俊介委員，村上暁信委員
他に国土交通省から佐竹健次氏（総合政策局環境政策課課長），東佑亮氏
（同課課長補佐），采野陽祐氏（同課国土環境第一係長），小浪尊宏氏（国
土政策局総合計画課課長補佐），吉澤泰輔（同課国土管理企画室専門調査
官）が出席

オブザーバー： 加納敏行氏（建設技術研究所），根岸勇太氏（中央大学）

欠席者： 高村ゆかり委員，大久保規子委員，大塚直委員，桑野園子委員，近藤昭彦
委員，横張真委員

- 議題：
1. 第1回議事要旨案の確認
 2. グリーンインフラについての話題提供
 - 国土交通省総合政策局：「国土利用計画とグリーンインフラ」
 - 池田委員：「気候変動適応策とグリーンインフラの可能性」
 - 石川委員長：「グリーンインフラの過去・現在・未来」
 3. 話題提供を踏まえた議論
 4. 特任連携会員の推薦について
 5. 今後のスケジュール
 6. その他

議事要旨

1. 前回議事録の確認
 - 前回議事要旨案が承認された。
2. グリーンインフラについての話題提供
 - 池田委員から「気候変動適応策とグリーンインフラの可能性」という題目で話題提供がなされた。
 - ・ 本講演に関しては，以下のような意見表明，質疑がなされた。
 - （石川委員）総合治水がGIの萌芽であるという話があったが，総合治水でできたこと，できなかったことを整理すると，これからのGIの担うべ

き内容がわかるのではないか。

- （池田委員）総合治水は都市型洪水を想定して行ったものである。見附市はまさにそのような発想から、田んぼダムを思いついた。しかし現在問題となっているのは従前と異なる集中的な豪雨であり、総合治水の発想をさらに発展させる必要がある。
- （石川委員）今も総合治水の取り組みは進められているのか。
- （国交省）総合治水は自治体の事業になっている。自治体の事業は補助金で実施されているので、事業としては目立たないが着々と進められている。事業としては目立たないが、総合的な枠組みという考え方は既に一般的な話になっている。一方でソフトに関しては、総合治水という枠を超えて防災全般の議論の中で現在展開されている。
- （石川委員）東日本震災の津波によって沿岸域が多大な被害を受けた。その際、沿岸部にあった運河が機能向上の名目で深く掘り下げられた。また存在していた潟湖も多く失われてしまった。しかしこれらは生物相保全にも多大な機能を有していた。一つの考え方にだけ基いて改変がされてしまう。そこには他分野の観点を統合するような省庁を超えた議論というのが存在しない。今後どのように省庁間の壁を取り除いていくかを考えていかないといけない。
- （小森委員）総合治水は事業だけでなく、自治体が土地利用も含めて対応していくということが主旨である。さらに、「水循環基本法」が出来たので、上流中流下流を一体的に議論をしていこうというのが現在の流れである。
- 国土交通省総合政策局環境政策課（佐竹氏）から「国土利用計画とグリーンインフラ」という題目で話題提供がなされた。
 - 本講演に関しては、以下のような意見表明、質疑がなされた。
 - （池邊委員）紹介された事例は、これまでの環境保全型の事業をこれからはグリーンインフラと呼ぶ、という姿勢のように見える。EU でのグリーンインフラは生物多様性保全という政策と一体化しているところがある。アメリカではまた別の理念から政策が展開されている。それに対して、日本でも何らかの思想に立って真から取り組んでいこうとしているのか。それともこれまで進めてきた事業をグリーンインフラと呼んでいく、という発想なのか。
 - （佐竹氏）グリーンインフラが、これまで取り組んできたインフラと全く違うものなのかというとそうでもない。日本でも当然真正面から取り組んでいくが、それはこれからやっしていこうというものである。グリーンインフラの中身について、またどう進めていけばいいのかということにつ

いてもまだ勉強している最中である、というのが現状である。

- （石川委員）スライド5に、「グリーンインフラの概念が本格的に我が国に導入されたのは平成25年頃」とあるが、「グリーンインフラの概念」とは何を指すのか。人によって概念が異なるというのが問題なので、ここに書かれた「概念」の中身がわかるとこれからの議論の前提をクリアにできるのではないか。
- （佐竹氏）H25の環境白書に言葉として入ってきたという主旨である。そこでは欧米の概念を紹介している。

- 石川委員長から「グリーンインフラの過去・現在・未来」という題目で話題提供がなされた。

3. 話題提供を踏まえた議論

- （池田委員）グレーインフラとグリーンインフラは完全に分けられるものではないという指摘があったが、全くその通りだと思う。今日はグレーインフラをグリーンインフラに変えていくという話はなかったが、これからはそういう点も進めていくべきではないかと思う。
- （高橋委員）グリーンインフラに関わる政策、施策がどういう影響を持ち得るかということを、シミュレーションを使って検討している。是非現場にそのような定量的な検討を入れ込んでもらいたいのではないかと考えている。
- （平澤委員）グリーンインフラの中に、文化的な要素を入れ込みたいという話があった。文化遺産の議論の中で、環境の話題が増えてきている。しかし居所的には文化的関心と環境保全とを両立させていくことが難しいことがある。それだけに今後はプランニングというか、その土地がどのように成り立ってきたかというのかをまず理解するという姿勢が非常に重要だと思う。

4. 特任連携会員の推薦について

- 石川委員長から、特任連携会員として山田正・中央大学教授、濱野周泰・東京農業大学教授の2名を推薦していくことが確認された。

5. 今後のスケジュール

- 次回は欠席者が多いことからメールで日程調整を行うことが確認された。

6. その他

- 特になし。